

ラオス国ルアンパバン県における環境教育システムの構築

活動地域  ラオス

ひろげる助成

3年目

実践

教員アンケートによる
教材満足度 **100%**

各活動の自主的な
環境活動実施回数 **2回/週**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **75%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

事業実施当初は環境教育の開発に苦労した。3年かけステークホルダーを増やし、行政のグリーンスクールの取組みとも協働を進め、地域に認められる教材になりつつある。

■ 工夫した点

活動として良いことをしていくだけでなく、それが地域に定着するよう参加者や利害関係者にとってのメリットを生み出すことができるよう工夫し協働を進めることができた。



6年生の農業ワークショップ

課題

子どもたちが身の回りの環境問題について体系的に学ぶ機会がなく、中学校が独自に環境教育を実施し、活動に継続的に取り組むには、教材や人材、資金が不足している。

目標

ルアンパバン県の学校にて、環境教育の教材開発、教員の人材育成、教育プログラムの定着が行われ、各学校、農業大学で活動を継続していくために必要な現金収入を向上する。

活動内容と成果

今年度は、現地協力団体の農業大学環境保全チームや事業対象者となる中学校、教育局だけでなく、天然資源環境局、都市開発局、農業局と協力し教材を改良することができた。また、中学校でも4年生の森林保全、5年生のゴミ問題、6年生の農業とそれぞれのテーマでの環境教育、ワークショップを実施することができ、2校で計10回のワークショップを行い、300人が参加した。事業で予定した活動以外にも、各学校で週2回環境保全活動の時間が設けられ、教員と生徒によるボランティアチームが結成されるなどの自主性の発展も見られる。



レクチャーやゲームを通して知識を学ぶ

全助成期間の活動を振り返って

本事業では、事業担当者が若手プロジェクトリーダーとして採用されていたこともあり、学びを事業にいかしながら活動を進めることができた。その結果、課題であったステークホルダーの整理、拡大についても事業実施地域で十分な広がりを実現することができた。また、活動の持続性についても、学校では環境保全と収入向上の両立、行政には彼らが進めるグリーンスクール認証の促進など双方に協働のメリットを生み出すことができた。



習慣として定着した校内清掃、ゴミ分別

〒102-0092
東京都千代田区準町2-12藤和半蔵門コープ103号
電話：03-3512-0355
E-mail：info@habitat.or.jp
HP：https://japanhabitat.org/



今後の展望

3年目には、実施対象校だけでなく、地域の中学校6校を招き、活動の視察会や教材開発ミーティングを行った。視察に参加した6校も、すでに本事業を参考に自主的な取組みを始めたところもあり、農業大学と協力し活動を拡大していくことが期待されている。また3年目は農業大学、中学校双方で将来的に活動を継続していくため、環境保全活動から現金収入の向上にも結びついており、活動の定着、今後の継続が期待できる。